「障害者等用駐車スペースの適正利用等の促進に関する調査研究」 (平成22年度 国土交通省)におけるパーキングパーミット制度への言及

■ パーキングパーミット制度についての評価(平成22年度時点)

○ パーキングパーミット制度については、本調査等におけるアンケート結果をみると、その効果について一定の評価がされている一方、課題もあり、大まかには以下のようにメリット、デメリットが整理できる。

メリット

- ・利用対象者が明確化されること
- ・利用対象者以外の者による利用がある程度減少すること
- ・地方公共団体による公的な仕組みであること

デメリット

- ・必ずしも幅の広い駐車スペースを必要としない利用対象者を広く対象としているため、広いスペースが必ず必要な車いす使用者等が結果として駐めづらくなったとの評価もあること
- ・利用対象者の要件を満たさない一部の高齢者等は、足腰が弱い等の事情があっても使えなくなること
- ・公的ではあっても任意の仕組みであり、強制力はないこと
- ・仕組みの創設、運用に一定の公的コストを要すること

上記のデメリットの一部をふまえ、佐賀県では「プラスワン」として、施設出入口付近の一般駐車スペースの一部を車いす使用者以外の者のためのスペースとして確保・表示する仕組みを始めており、従前よりも駐めやすくなったとの評価が7割を超えている。

■ 対応策の方向性

○ 比較的低コストで、緩やかな制度として不適正利用を防止する仕組みとして一定の評価ができる方策であり、「ダブルスペース」の設置促進等と併せて、地域の実情に応じた地方公共団体での検討を促すべきである。